

稲・大豆作情報 (NO. 3)

1. 水稲作況情報田の生育概況(7月16日現在)

品 種 場 所	移植日 栽植株数	年 次	現在の生育状況				概況
			草 丈 cm	茎 数 本/m ²	主稈 出葉数	葉色	
夢しずく 佐賀市本庄町	6/16 17.6株/m ²	本 年	47.7	276	8.8	41.4	6月6半旬以降、日照時間が少なく推移したため、分けつの発生が遅れている。今後は、有効茎の確保と確保後の中干しが肝心。
		平 年	45.5	293	9.1	39.3	
		平年比	(105)	(94)	(-0.3)	(105)	
さがびより 小城市芦刈町	6/20 17.7株/m ²	本 年	38.4	268	8.0	38.7	
		平 年	43.6	346	9.3	41.0	
		平年比	(88)	(78)	(-1.3)	(94)	
ヒヨクモチ 小城市牛津町	6/28 20.1株/m ²	本 年	27.3	206	7.4	40.1	
		平 年	29.9	214	8.2	40.8	
		平年比	(91)	(96)	(-0.8)	(98)	

注1) 各品種 前作：麦、前前作：水稲。

注2) 施肥及び病虫害防除は地区基準に準ずる。

2. 水稲管理

○今週の管理 ～有効茎の確保を～

- 生育は全品種やや遅れているため、深水を避け、浅水管理を徹底し、分けつ促進を行う。
- 生育ムラが出来、生育不良部がやや黄化している圃場はガス湧きが続いている。
→ 早急に落水し、ガス抜きを行う。適切なガス抜きの確認は、直接圃場に入っていく。

- 有効茎が確保できている圃場では、中干しを開始する(目安は右表を参考)。中干しは、軽い亀裂が入り足跡がわずかにつく程度で、1週間程度実施する。夢しずくは、強い中干しを行わないよう注意する。

品 種	目 標 穂数 本/m ²	有効茎数(中干し時期)	
		50 株/坪 (15.2 本/m ²)	60 株/坪 (18.2 本/m ²)
夢しずく	360	24 本/株	20 本/株
さがびより	370	25 本/株	21 本/株
ヒヨクモチ	440	29 本/株	24 本/株

○除草剤 ～取りこぼし雑草に注意～

- 中後期除草剤による早めの対策を講じる。

対 象	除草剤名	使用時期	備考
ヒ 工 類	クリンチャー 1 和粒剤	移植後 7 日～ル I 4L 但し、収穫 30 日前まで	湛水散布 (3～4 日は湛水)
	クリンチャー EW	移植後 20 日～ル I 6L 但し、収穫 30 日前まで	落水散布。展着剤加用。
	ヒエクリーン 1 和粒剤	移植後 15 日～ル I 4L 但し、収穫 45 日前まで	湛水散布 (3～4 日は湛水)
広 葉 雑 草	バサグラン粒剤	移植後 15 日～55 日 但し収穫 60 日前まで	落水～ごく浅く湛水散布。 最低 3 日間入落水しない。
	バサグラン液剤	移植後 15 日～55 日 但し収穫 50 日前まで	高温条件下では、薬害が生じやすいので夕方散布。

ヒエ類 および 広葉 雑草	クリンチャーバスME液剤	移植後15日～ルI5L 但し収穫50日前まで	落水～ごく浅く湛水散布。 最低3日間入落水しない。 高温条件下では、薬害が生じやすいので夕 方散布。（展着剤無加用）
	ハイカット1和粒剤	移植後15日～ルI3.5L 但し、収穫60日前まで	湛水散布（3～4日は湛水）
	ワイドアタックSC	移植後20日～ルI6L 但し、収穫30日前まで	落水～ごく浅く湛水散布。（展着剤無加用）

○病害虫の発生および防除

- 今年のトビウロウカは、現在のところ6月6日と6月30日に飛来したと考えられる。稲の生育状況から見ると、6月30日に飛来した個体群が圃場に定着し、増殖すると考えられるため、**第1回目防除適期（第一世代幼虫発生時期）は、7月24日～7月27日ごろ**となる。
また、発生状況は圃場によって異なるため、現地の発生状況をみながら防除時期を決定する。
- 梅雨明け前で曇天が続き、気温・湿度とも“いもち病菌”に好適条件が継続している。葉に病斑（下写真）がみられる場合は、早急に薬剤防除を行う（オリゼメート粒剤など）。



▲いもち病（農業技術防除センターより）



※発生予測第2版 (7/3発表)

3. 大豆管理 ～生育を確保するため、時期に応じた播種をしましょう～

○播種（7月16日～7月21日）本数確保のため以下の播種量を参考に
する。

時期	栽植本数 ㎡あたり	栽植様式 条間×株間×1株本数	播種量 (kg/10a)	施肥
7月16日～20日	13本	75 × 20 × 2	4.0	-
7月21日～25日	18本 20本	75 × 15 × 2 3条播き 20 × 2	5.3 6.0	BB480を40kg/10a (生育量確保のため行う)

- 播種後1週間以上経過しても発芽していない圃場 → 土中の種子の状態を早急に確認する
発芽が見込めない場合：一度吸水し膨らんだ形跡はあるが、芽が停止している
芽は動いているが土膜1cm以上あり、土の下でとぐろを巻いている
→播き直しを行う。播種量は遅まきの栽植密度・播種量に従い作業を行う。

※播種深度について

播種後2～3日以内に降雨が予想される時や、土壤水分が多い場合→2cm程度の浅め 鎮圧はしない
播種後1週間以上好天が予想される時や、土壤が乾燥気味の場合→4cm程度の深め かつ 鎮圧する。

